

徳育

佐世保德育推進会議

第2号



発行日 平成27年1月30日
発行 佐世保德育推進会議(佐世保市教育会内)
住所 栄町4番11号サンクル1番館2F
TEL/FAX (0956) 23-2856
E-mail sasebotokuiku@alpha.ocn.ne.jp

「德育通信」第2号発刊に寄せて

佐世保德育推進会議会長 木村 勝彦



佐世保市民の皆様には健やかにお過ごしのことと拝察いたします。

「德育通信」第2号の発刊に寄せて、一言ご挨拶申し上げます。

皆様には日頃より、佐世保德育推進会議の運動にご理解とご協力をいただき、またそれに德育推進へのご尽力を賜りまして、まことにありがとうございます。德育推進の取組みも市民の間で広く認知されるようになり、佐世保市の独自な市民運動の一つとして定着・浸透してきたことは喜びにたえません。

しかしその一方で時代は今、これまでになく德育の重要性が叫ばれなければならないような混迷の状況にあります。今年も私たちの胸を抉り、寒々とした思いに捉えさせるような出来事が数多く発生してしまいましたが、私たちのまち佐世保もその例外ではありませんでした。そうした凶行の数々が、第一義的には罪を犯した人々の責任であることは言うまでもありません。しかし同時に、私たちの作り上げてきた社会の病んだ姿、すなわち道徳的価値観の欠落や刹那的・快楽主義的な欲望追求というあり方に、その大きな原因があるのではないかでしょうか。私たちはまさにこうした時代認識と問題感覚をもって、德育を考え、推進していかなければならぬように思います。

德育の根本は、お互いの生命に対する畏敬の念、すべての人の生きることの素晴らしさに対する絶対的な肯定の気持ちにあります。弘法大師（空海）は「生まれ生まれ生まれ生まれて生の始めに暗く、死に死に死んで死の終わりに昏し」と言われました。無数の人々が生まれて、生き抜き、そして死んでいきますが、生きてくる前も死んだ後も闇のように暗く、不分明だというのです。まさに私たちの人生は闇と闇の間に生じた、貴重な光の時間なのではないでしょうか。こうした一人一人の光である生命を妨げたり、消したりするのではなく、もっと豊かで輝かしいものにし合っていく社会になることが、そして生命に頭を垂れて、敬い合うことが德育の目指すところだと思われます。

佐世保における德育推進の運動はまだその緒についたばかりであり、今後長い将来にわたって継承されていくべきものです。佐世保德育推進会議はその地ならしをするために微力を尽くしております。ぜひ市民の皆様には今後とも、活動の趣旨にご理解を賜りますようお願い申し上げます。そして、佐世保の德育推進が市民の皆様方の力で、現在から未来へと継承していくべき運動として大きく展開することを祈っております。

[26年度] 德育推進フォーラム

基調講演 「少年院の現場からの提言」

～子どもの心を育むために援助者が考える視点～



佐世保学園園長 伊藤 達也

平成26年4月 佐世保学園に着任し、今回「德育推進フォーラム」での講演をさせて頂く機会を得ましたことに感謝申し上げます。

普通の人は「少年院」という言葉は、知っていても、少年院がどこにあるのかも知らないし、そこで何が行われているかを知りません。多くの人たちの少年院のイメージは、暗く、閉鎖的で自由がない「少年を収容している刑務所」というものがほとんどです。しかし、一度、施設参観をして頂ければ、矯正教育を行う施設として、「教育的雰囲気」や「明るく開放的」のイメージに変わり、「少年院が教育の場である」ことを理解していただけたと思います。少年院は、少年法に基づく保護処分を執行する機関であり、矯正教育を授かる施設です。矯正教育のことを別の言葉に言い換えると「育て直し」と呼ばれます。どんな少年であっても「変化し成長する」と信じ、働き掛けを継続し、親身になって支援することが前提となります。そうすると少年自身が、自分の過去と向き合い、自分の行為の問題性を考え、これから自分の姿を懸命に模索していきます。その羅針盤となるものが、德育の基本であると思います。智育・体育は、基礎（道具）で德育は、社会体験、道具を使う場所です。日常生活の場面での人との関わり方です。少年院では、集団生活が基本となり、社会的場面が豊富に追体験していきます。さらに、生活の前提となる食育が確保されており、安心・安全・健康な生活が少年の成長に大きく影響しています。言い換えれば、少年を取り巻く環境を、健全な生活環境に導くことが大切と考えます。なぜなら、少年院に入院した少年は、入院したころの表情とまったく別人のように輝いた表情で出院していきます。矯正教育は、特別な教育ではなく、德育、人との関わり方を丁寧に地道に体験させることに他ありません。最後に、非行に携わる機関として、社会に貢献し信頼される施設として努力したいと思っています。

(2014年10月4日 於 清水地区公民館)



標語コンクール入選表彰式



標語コンクール入選表彰式



佐世保市歌を歌い継ぐ会員と
中央保育園児



気になるマナーQ&A

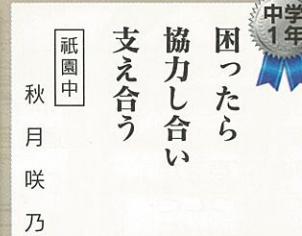
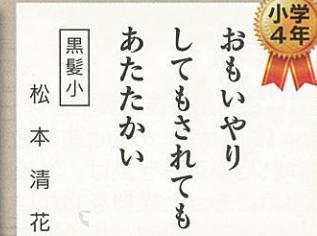
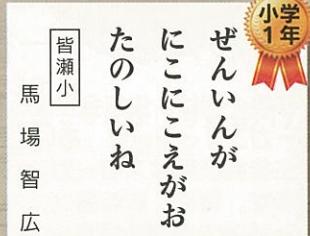
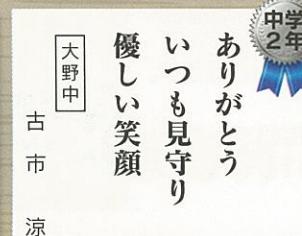
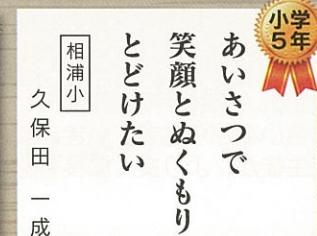
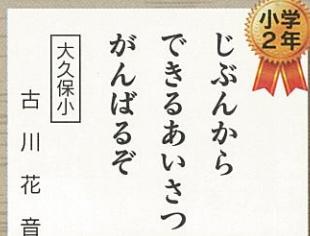
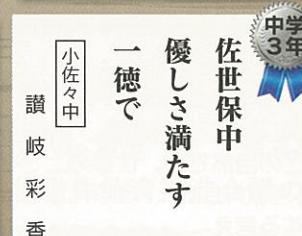
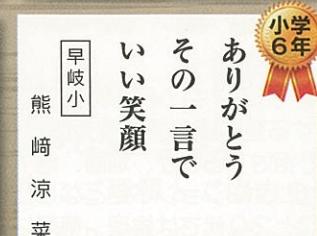
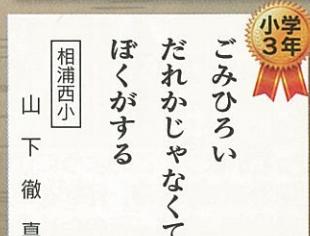


講演「少年院からの提言」



熱心に聞き入る参加者

平成26年度 「標語コンクール（一徳について）」入選作品

佐世保市PTA連合会・佐世保德育推進会議共催



2014年10月4日德育推進フォーラムに参加された皆様からいただいた感想のうち、一部を掲載しております。

● 講演についてお答えください。

- ・子供が変わると信じ続けての指導は大変なものだが、とても大切な教育の原点だと改めて思った。
- ・思春期の子供も育て直しできるという話に希望が持てた。
- ・子供との接し方一つで(言葉遣い等)子供の成長に影響することがわかった。
- ・発達には“大切にされること、愛されること、必要とされること”が必要。自尊感情は成長の土台がポイントと感じた。
- ・自分の生き方を子供たちに伝えていくよう、これから徳を積んでいきたい。

● 「德育推進」が拡がるためにどのような手立てを取ればいいと思いますか？

- ・大人の出番です。(いい大人になる努力が子供の成長につながる。大人がしっかり生きる。)
- ・「德育推進のまち、佐世保市」という言葉を、マスコミ、推進会議など様々な人が行事やイベントの際に必ず口癖のように言うようになると、耳に残るし、浸透していくのでは。
- ・「そんなことわかっている」で終わらせないで、「実践することが大事であると思う。
- ・乳幼児期からの心育てが大切で、身近な、出来ることから実践することが大切なのでは。
- ・德育について一人一人が語り合う場を作っていくべきではないか。

● 本日の「德育推進フォーラム」についての感想をお聞かせください。

- ・日本人の性質、国民性は世界に誇れるものだと思う。大人も子供もそれに気づくような取組をされていると思う。
- ・佐世保市歌の合唱はとても良かった。他のイベントでももっとやっていいと思う。
- ・子供の課題は大人の課題であるという意識を持たなければと思った。利他の心を持つ大人になること。
- ・このフォーラムをこれから先も続けていくこと、数年後には全国が注目する德育推進の市でありたいし、あらなければならないと思う。
- ・普段聞けない話を聞けて、人生が豊かになったように感じる。これを子供に教えていけたらと思う。



一徳運動

わが校の一徳運動

佐世保市立光海中学校

本校の朝は、生徒会役員と登校してくる生徒の爽やかな「おはようございます」の声で始まります。一校一徳運動スローガン「一日一笑　あいさつ∞（無限大）」のもと生徒会役員を中心とした「挨拶運動」が展開されています。

生徒会役員はスローガンの書かれたタスキを掛け、学校の仲間に声をかけます。特に、本年度は、より心のこもった挨拶を心がけようということで、「立ち止まり挨拶」にも取り組んでいます。歩きながらでは、心が伝わらない、相手の目を見て挨拶を交わそうと始められたものです。朝に限らず、お昼や夕方にも「こんにちは」等の挨拶が廊下や教室で交わされています。また、挨拶運動とあわせて行われているのが、校内美化活動です。朝から落ち葉を掃く音と生徒の明るい談笑の声が響きます。

社会生活では、人とかかわり合いながら生きていきます。挨拶で心を開き、美化活動で心を掃き清めた生徒が、より良く成長してくれるものと期待しています。



わが社の一徳運動

株式会社 長崎地研 代表取締役社長 村山 隆之

我が社は、ボーリングを主とする建設業です。例えば家を建てる際の地質調査、温泉掘削工事、地滑り工事などに携わっています。このように仕事で相対する物が、地面、地下などの自然です。仕事の上で相対するものが「者」ではなく「物」であるため、何かとコミュニケーション不足となります。我が社には、60代50代40代30代20代と各世代の社員がいます。そのため60代と20代では倫理、德育に関する考え方がかなり違うように思われます。人は、人と接することにより、人として磨かれると言いますが、職業柄地面が相手なので中々そのような場面が仕事上あまりありません。そこで我が社では12年前から「職場の教養」という本を用いて朝礼を行っています。毎朝、日替わりの司会者のもと、二人が当日用の文章を読み、他の二人がその文章に対しての感想を述べます。この文章が道徳倫理に関する内容なので、自然と若い社員と年長の社員の倫理観、道徳観が近づいているように感じられます。

「継続は力なり」と言う言葉を胸に、これからも我が社は、德育推進活動の一環として朝礼を德育の場と捉え実践していきます。



わが家の一徳運動

佐世保市立宮小学校PTA副会長 茅原 優子

わが家は小学校5年生と3年生の元気印の息子2人と私達夫婦の4人家族です。

「おはよう」から「おやすみ」までの挨拶は目をみてにっこり笑顔でと心掛け家族で取り組んであります。また語尾に小さい「う」を付けるといつもの挨拶に元気をプラスすることができ、息子達の元気の源のひとつとなっているようです。

朝夕の登下校の際には近所の方々や宮地区おたすけ隊の皆様、学校の先生方よりたくさん挨拶を交わしていただき、息子達は安心と元気をたっぷり頂いております。

そろそろドキドキな思春期に突入しますが、目を見て笑顔の「う」付き挨拶を続け、元気あふれる子育ち・親育ちを楽しみたいと思います。



あなたの聞いて徳する話 募集します!!

広報させば2月号「德育通信」コーナーから、あなたが身の周りで見つけたり感じたりした「聞いたら心が温まる話」を募集します！

日常のほんの小さなうれしい出来事や、ぜひ皆さんに聞いてほしい德育に関するお話など、あなたの“聞いて「徳」する話”お聞かせください！

採用された方のお話は、広報させば「德育通信」コーナー6月号から随時掲載させていただきます。

■応募方法

応募用紙に必要事項と400字以内のお話を書き込み、佐世保德育推進会議事務局宛にお送りください。FAX・E-mailでのご応募も受け付けてあります。また、ご質問・ご感想等もお待ちしております。応募用紙は佐世保德育推進会議事務局ほか、佐世保市のHP、社会教育課で配布しております。

■ご不明な点はお気軽にご質問ください。

佐世保德育推進会議事務局

TEL/FAX (0956) 23-2856

E-mail sasebotokuiku@alpha.ocn.ne.jp